

一般質問



4名の議員から一般質問があり、町長の考えを問いました。

救急医療情報キットの導入は

澤田光子 議員



質問

医療情報を入れたキットは、冷蔵庫に保管し、救急通報時に駆けつけた救急隊員がその情報を生かし、迅速に適切な救急処置ができる万一の備えではないでしょうか。

せなな町の高齢化率が高くなっていく現状を踏まえて、高齢者、障害者、健康に不安を持っている人たち、また、町民の安全・安心のために救急医療情報キットの導入をすべきと考えますが、町長の所見を伺います。

災害時要援護者登録
通知書を年内に配布

答弁 町長

当町では、高齢化が進む中で、高齢者や障害者等に対する支援策として、平成22年度より災害時要援護者登録台帳等の整備を進めており、手挙げ方式による申請のあった459人の方に対して、災害時要援護者登録通知書を年内に配布する作業を進めています。

この通知書については、災害時における要援護者への支援を適切に実施できるほかに、救急医療情報キットと同様の働きをするもので、内容は、氏名・年齢・かかりつけ医療機関・持病や服薬などの医療情報・緊急時の連絡先の情報などが記載されています。

配付にあたっては専用の容器に入れて配布することから十分活用が図られるものと考えています。

再質問

現在、65歳以上で一人暮らし



配付予定のキット

しの世帯は1028世帯、夫婦二人世帯が695世帯、その他に障害の持っている方、健康に不安のある方が町民の中には大勢いると思います。

何人かの町民とお話しをさせていただいた折に、「自分は今一人暮らしで、子どもたちは遠くにおり、隣近所の人頼りだが、その人たちも高齢で自分のことを頼める人がいなくなった」と言います。

この現状を踏まえたときに「命の力プセル」として救急医療情報キットを一日も早く進めていただきたい。

また、実施する際の周知徹底をどのようにするのかお伺いします。

キットに入れて手渡し、変更の際も町が対応

再答弁 町長

町としては、災害要援護者の登録通知書を、キットに入れて手渡し、情報内容に変更のある場合については、町が対応します。

また、高齢者支援員の訪問の際や老人クラブの集会等においても積極的に更新の働きかけをします。

風力発電企業の誘致は

小平 久 議員

力発電に国民的感心が高まっております。大手企業も動き出しました。

当町は以前から安定した風の吹く町として注目され、民間企業の風車で8基、町直営の洋上風車2基の実績もあります。現在は、町内に民間企業が4カ所で風況調査を行っているという聞いています。

去る3月11日の東日本大震災に伴い、福島第一原発事故を受けて再生可能エネルギーの活用が注目され、太平洋側の太陽光発電と日本海側の風



質問

政府においても、再生エネルギー特別措置法が8月26日

に成立しました。また、高橋知事は9月12日に再生可能エネルギーによる発電を事業化した「モデル地域」を各地につくる方針を固めたと発表しています。

日本初の洋上風車2基を持ち、再生可能エネルギーに取り組んできた町として、風力発電適地をPRし、企業誘致に積極的に取り組むべきと考えますが町長の見解を伺います。

積極的に要望活動を展開したい

答弁 町長

現在、道では再生可能エネルギーによる発電を事業化するモデル地域を各地につくるとの方針ですが、詳細については現段階ではまだ示されていません。

当町は風力発電の適地として、町内外に認識されているところですので、取り組むことが可能な制度であれば積極的に要望活動を展開したいと考えています。

道から内容を示された段階で取り組み

再答弁 町長

モデル地域について道から内容を示された段階で取り組んでいきます。

企業誘致についても既に2社の電源業者に直接会って、町としてこれからも積極的に支援していくということを伝えております。

再質問

最近の時事通信社の世論調査でも、風力や太陽光の再生可能エネルギーが国民から84%の支持を得ています。今まで国策で原子力発電が進んできて、再生可能エネルギーがなかなか進まない状況でありました。

この地域から、今後の国の政策に沿った再生可能エネルギーの活用には協力できることでは、地域の活用になることでもあり歓迎すべきと思いますので、前向きに企業誘致と道のモデル地域に積極的に取り組んでいただきたい。

若松頭首工の魚道管理

理は

質問

この件について、昨年の9月定例議会で「サクラムスの増殖は」と一般質問した経緯があり、答弁では「施設管理について、河川は2級河川により函館建設管理部、頭首工は土地改良区、魚道は北海